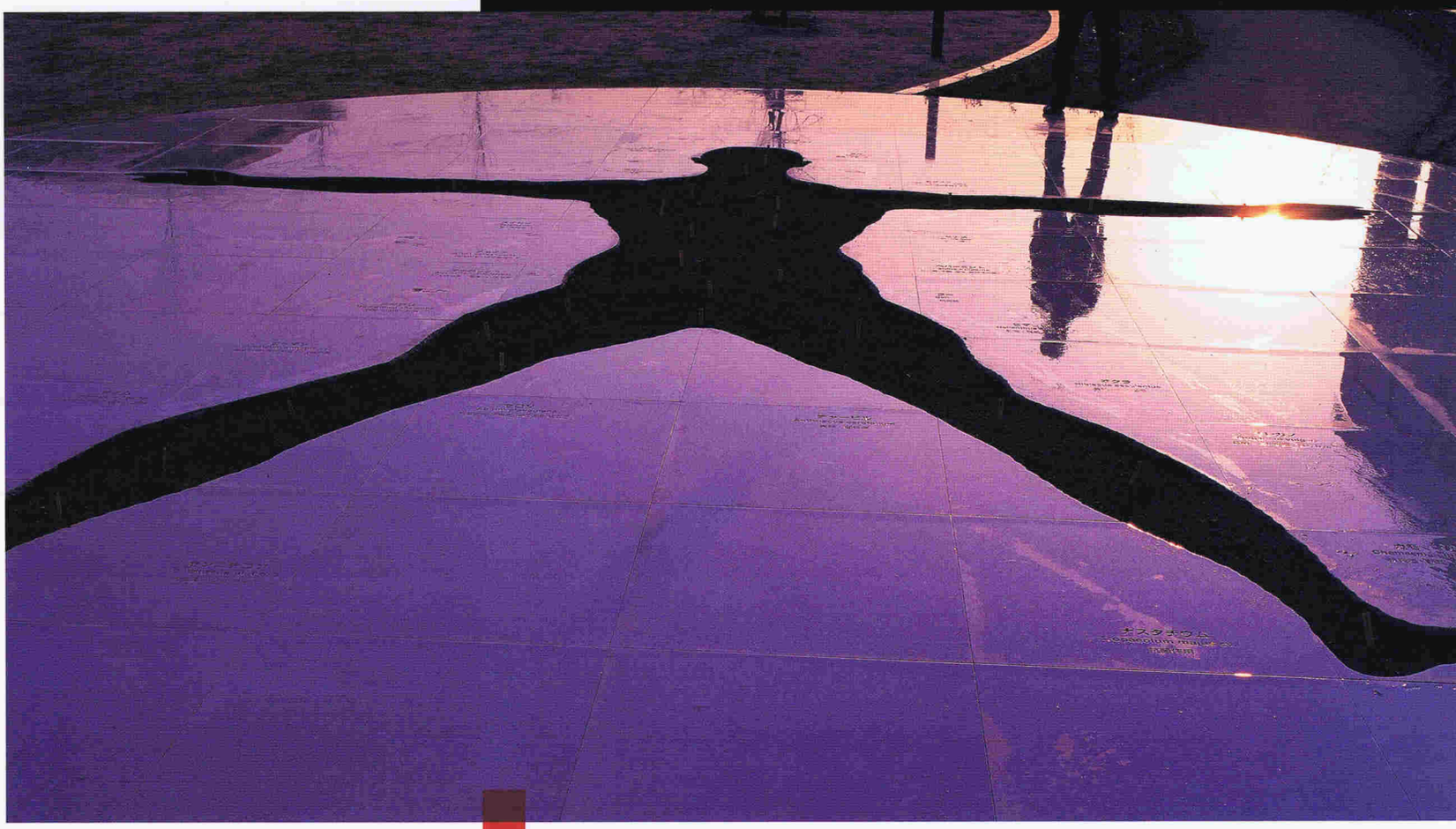
№33
Autumn
2003

LANDSCAPE DESIGN

景観と環境が融和する風景を目指して
季刊［ランドスケープデザイン］

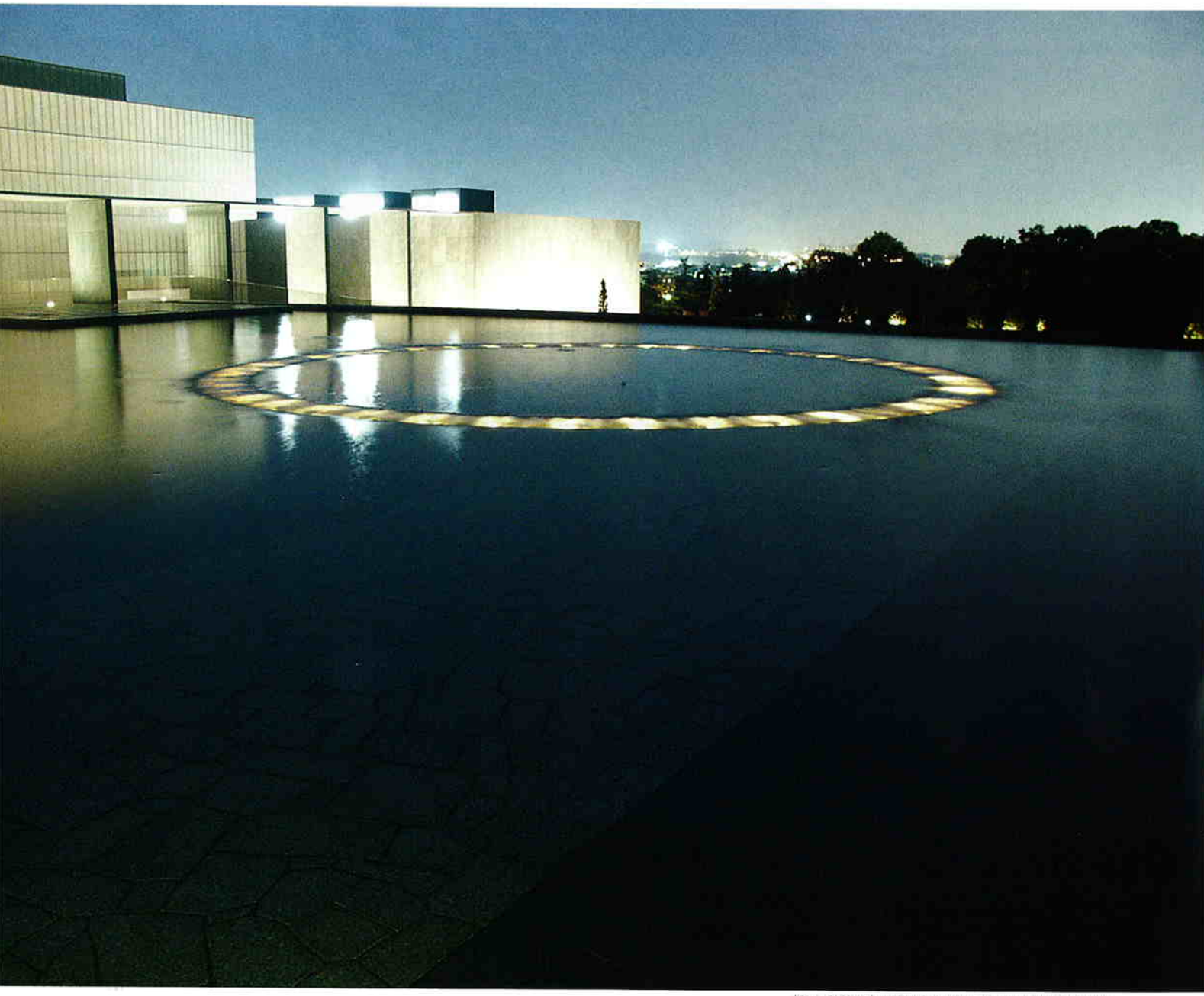
特集 新時代のランドスケープアート

地域とアートがつながる大地のランドスケープ──越後妻有アートトリエンナーレ2003
イサム・ノグチ「遊び・アート・自然」の融合──モエレ沼公園
HUMAN SERVICES/HYAKUYOUBAKO+HUMANIZED ART SCAPE
ヒロ・ヤマガタの宇宙的アート/D・project「Daikanyama SHOW」ほか



Landscape Works ──品川セントラルガーデン、ルネアクアパークス、飯田町アイガーデンエア、永田町プルデンシャルタワー、LaQua、かつらぎアクアセンター、いせさき市民のもり公園、豊田市美術館のランドスケープ ほか

特別報告 ──ナーセリーが変わった──開かれた鉄のカーテン
ソウギョバスターズ──大覚寺大沢池環境再生計画
ゼリスケープからcedar river watershedの事例 ほか



新しい建築と古い城址公園の緑、そして周囲の街あかりを映しこむ、池中のミステリアスな泡のリングは不思議な静寂感を醸し、見る人に時・歴史の流れを感じさせる

風景を映す建築とランドスケープ
豊田市美術館ランドスケープ

文＝三谷康彦（日建設計ランドスケープ設計室）　写真＝田中 博　所在地＝愛知県豊田市

建物屋上より、正面アプローチ石畳を中心に上の池と下の池を望む。力強い石畳は四国牟礼和泉屋作、城址公園の緑と新しい建築を結び、幅は5,750mm。厚い石の仕上げや目地合わせの精度を、新旧部分で徐々に変化させている。普段良く使う部分にこそ、アート的なゼスチャーが必要との考え

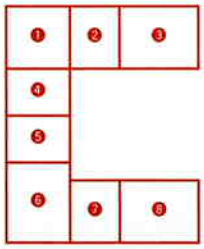
下の池周り車回し横にある駐車帯の石の鋲も四国牟礼和泉屋作。こういったさりげない部分のディテールにも、アート的な表情

豊田市美術館でのランドスケープの仕事は、筆者が7年間在籍した米国サンフランシスコのピーター・ウォーカー事務所時代に取り組んだ仕事であり、基本構想から設計監理まで一貫して深く関わった。このプロジェクトは私が日建設計に勤務を始めて間もない1997年に、A.S.L.Aのデザイン部門賞でMerit AwardをPeter Walker and Partnersとして受賞している。昨年6月に再訪。完成後ちょうど7年たったが、ラクウショウ、コウヤマキ、水辺のヤナギ、既存林への馴染み植栽など順調である。芝生、コグマザサもよいコンディションだ。芝庭部分に設置したアート鑑賞で芝生が痛みにくいように、基盤部分には砂質土壌にアドバンスターフを混入して芝庭の長寿命化を図ったり、芝表面の水勾配は少しムクリをつけた水平としたり、地中の暗渠配水管で水はけをよくしているのが効を奏している。

敷地からの雨水流出量を減少させるために、ラクウショウのグリッド植栽部分全域の地中深くに、単粒砕石層による浸透式貯留槽を設けているが、湿地でも生育できるラクウショウを選択したのは正解だった。コグマザサと芝生の間の倍サイズ小舗積見切り下に仕込んだPVCのルートバリアーも上手く機能している。池の既存林側に設えたカキツバタの畝は既製品U型側溝を使用、その中には意図的に貧栄養の田土を搬入し、いたずらに大きく成長して風で倒れることがないように工夫を凝らしたが、水田の風情がやっと出てきたようだ。上と下の池底に、泡による水景と照明を仕込んでいる。泡は汚水浄化槽用の好気性バクテリアへの給気管を細工して使用し、相変わらずミステリアスなリングを水面に創っている。

建築から必然的に出てくる無数の雑多な枡類や電気のハンドホールも、設計当初より歩行路も兼ねる砂利下に収め隠す設計としたことで、建築足元を美しく際立たせ、庭園内部にも目障りなものがほとんどない気持ちがよい景観が生まれた。

ランドスケープは、本来的には建築以上に長寿命であるわけで、適切なメインテナンスによって設計意図がより明確になり、長く人々に楽しんでもらうためには、見えない部分（例えば土中、池底、石ウォールの中、砂利下等）への計画・設計時点での「仕込み」が重要である。シンプルでミニマルに見えるものが美しく気品があふれるのは、デザインとして不要な要素をすべて削除（なくすという意味ではなく、見えなくする）しているからに他ならない。



❶車まわし駐車帯の石のマーカー
❷硬い石を柔らかく感じさせる、優雅な曲線のシートウォール
❸ラクウショウの林の中のアートオブジェ
❹建物側ピロティから城趾公園の緑を望む
❺カキツバタ、アワのリングと建物
❻正面アプローチ石畳の城趾公園側より建築を望む
❼大割りのサビ皮花崗岩による丸池護岸。目地の隙間から池の水が見える
❽ランドスケープの要素の石畳が建築に貫入する

街あかりを眺められる、特別に設えたランドスケープの軸線

名　称	豊田市美術館ランドスケープ
所在地	愛知県豊田市小坂本町8-5-1
主要用途	美術館
発注者	豊田市
設　計	ランドスケープ／Peter Walker and Partners (Peter Walker、三谷康彦)ただし茶庭以外すべてランドスケープ照明／Peter Walker and Partners（三谷康彦） 建築／谷口建築設計研究所(谷口吉生、高宮真介、宣卓)
設計監理	Peter Walker and Partners（Hiko Mitani） 監理協力／溝口一三
規　模	敷地面積／30,041m²、建築面積／6,194m²
工　期	設計期間／1991年11月～1993年3月 施工期間／1993年8月～1995年6月
施　工	大成・太啓・伊藤建設共同企業体 植栽協力／㈱豊田緑化苑、㈱ヤハギ緑地 石工事協力／㈱和泉屋石材店、㈱フジ大理石 水景協力／㈱ベルックス
仕　様	メインアプローチ石畳/瀬戸内海産花崗岩錆皮付き、蛇行石ウォール／瀬戸内海産花崗岩錆皮付き、短冊スロープ／アスファルト舗装、敷き砂利／輝緑岩砕石、既存林土留め／自然石石組み、茶室外短冊石畳／バーモントスレート方形張り、池底／中国産花崗岩乱張り、見切り石／中国産花崗岩G603小舗石倍サイズ、階段／古材枕木
植　栽	ラクウショウ、コウヤマキ、オモイガワザクラ、シラカシ、アラカシ、ヤマモミジ、クヌギ、コナラ、ヤマボウシ、エゴノキ、スダジイ、ヤマザクラ株立ち、ヤナギ、ユキヤナギ、コクマザサ、カキツバタ、オオイシウマスギゴケ、セキショウ、シダ、エルトロ芝ほか
交　通	名鉄「豊田市」駅より徒歩15分